

桐生西ロータリークラブ週報

2009-10年度RIテーマ

ジョン・ケニーRI会長 ロータリーの未来はあなたの手に



例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi
 会長 下井田秀一 クラブ会報・雑誌委員長 松原 豊
 幹事 向田 靖 委員 井本上輔・正田恵一

No. 1745

2009年11月20日発行

第1852例会 (2009・11・13) 報告 (禁煙例会)

創立記念例会・100%出席例会!!



創立記念日に因んで
卓話をさせる
金子福松パスト会長を中央に
下井田会長と向田幹事

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
3. 来訪者紹介
4. 会長報告
5. 幹事報告
6. 食 事
7. 委員会報告
8. 卓 話
9. 点 鐘

金子福松パスト会長
例会終了後例会運営委員会開催

◆ビジター

名誉会員 星野精助君

◆会長報告

下井田会長

1. 昨日11月12日が桐生西RC創立記念日ですので、本日の例会を創立記念例会並びに100%出席例会とさせて頂きました。この後、金子福松パスト会長に卓話をお願いしております。改めて先輩皆様が歩まれた足跡とご功績に感謝申し上げ、私も会長としてクラブを盛り上げて参りたいと存じます。また見事100%出席を達成できました。ご尽力頂きました担当会員始め会員皆様に心より感謝申し上げます。
2. 地区から次年度の地区委員の推薦依頼が来ておりましたので、地区広報委員に東郷庸史君を、地区ローターアクト委員に坪井良行君を推薦することに、理事会で決定致しました。お二人には是非ご活躍いただきたいと思っております。またクラブで推薦したということは、クラブをあげてお二人を応援することですので、ご協力をお願い致します。また、矢野亨君に同じく地区からガバナー諮問委員の要請が届いております。
3. 11月19~22日(木~日)の日程で姉妹クラブのフィリピン・マンダラヨーンRC公式訪問に行つて参ります。参加メンバーは私と中野理事、石川ニコニコBOX委員長、江原国際奉仕委員長、天沼・家住委員の6名です。

◆新築祝い贈呈

花房孝道君が
自宅を新築されました。
おめでとうございます。



◆幹事報告

向田幹事

- ◇例会終了後1Fで例会運営委員会を開催致します。
- ◇家族会秋の食事会決算書を配布致しました。
- ◇例会変更のお知らせ
前橋RC 11/24, 12/8, 12/29(休) 前橋南RC 11/18
前橋北RC 11/23(休) 渋川みどりRC 11/17
- ◇クラブ会報が到着しています
桐生RC 11/9

◆SAA

稲森SAA

年度当初、下井田会長の発案により食事にメリハリをつける一貫として、本日は桐生西RC創立記念日をお祝いする特別メニューを用意致しました。お赤飯とお頭付きの鯛ではなく鰯ですが、どうぞご賞味下さい。

◆食事メニュー

1210キロカロリー

赤飯、鰯の塩焼き、沢煮椀、香の物、嶺岡豆腐

◆委員会報告

□出席委員会

花房委員長

総数49名(免除者9名の内6名出席の為3名を除く)
出席率対象者46名、出席率対象者出席人数36名
欠席者10名(内前メイク10名) 出席率100%
前々例会修正出席率90.48% (最終欠席者4名)

□ニコニコBOX委員会

石川委員長

桐生西RC創立38周年を祝して名誉会員・星野精助君
星野君、片貝君、山岸君
クラブ創立記念日に因んで卓話をさせて頂きます 金子君
金子福松パスト会長、卓話ありがとうございます
稲森君、井本君、阿左美君、岡田君、横塚君、乾君、
前原君、栗原君、新木君、津久井君、斎藤君
祝出席100%達成 下井田君、正田君
100%出席例会ご協力ありがとうございました 向田君

新築祝をいただきありがとうございます 花房君
ロータリー財団委員会 前原委員
 桐生西RC創立38周年を祝して 星野君、斎藤君
 金子福松パスト会長、卓話ありがとうございます
 稲森君、岡田君、鳥嶋君、前原君、
 近藤君、津久井君、横塚君
 100%出席例会ご協力ありがとうございました 向田君
 ロータリー財団月間に因んで 金子君、山岸君
 船戸さんお世話様でした 栗原君
 13日の金曜日です。注意する日です 阿左美君
 ラグビーシーズン真最中15日全日本とカナダの試合
 楽しみにしています 花房君
米山奨学委員会 船戸委員長
 桐生西RC創立38周年を祝して 星野君、斎藤君、金子君
 金子福松パスト会長、卓話ありがとうございます
 稲森君、阿左美君、岡田君、鳥嶋君、前原君、
 栗原君、近藤君、津久井君、片貝君、船戸君
 100%出席例会ご協力ありがとうございます
 花房君、向田君

桐生西RC創立記念卓話



金子福松パスト会長

「桐生西RC 創立記念日に因んで」

会員の皆様ご承知のように、11月12日が我が桐生西RCの創立記念日になります。(昨日でした。)

過日、阿左美プログラム委員長から「創立記念日に因んで」ということで、卓話をするよう依頼がありました。然し、創立時のことは今まで何回も諸先輩方が話しており、又、私も創立に関連していることは何度か話しているので、もう種切れだからとお断りしたのですが、新しい会員で未だ知らない方もいるから、創立時のことを何でもよいかから話せということで、引き受けることにしました。

私の記憶も大分うすれてきて、断片的になって、あまり面白い話は出来ないと思いますが、当時は振り返りながら話してみますので、お付き合い戴きたいと思います。

話の骨子としては、創立当時のことと、前原勝樹先生について話します。先々週の第1850回記念例会で、矢野先生がクラブ創立時のことを少し話されましたが、その当時、矢野先生が一番苦労されたのではないかと思います。

当クラブ創立に当っては、スポンサークラブの桐生RCから星野重夫会員、星野精助会員のお二人、又、同じくスポンサークラブの桐生南RCから矢野亨会員と新井敏夫会員のお二人が移籍して、4名がキーマンになって設立前の諸々の準備について、かなりハードな仕事をこなして来られたと想像されます。

その設立時の指導をされたのが、桐生RCのPG前原勝樹先生でした。当時は地区の拡大補助者という役職をされていました。前原先生は設立の後もずっと当クラブの発展に指導的役割を果たして戴き、逝去されるまで、当クラブの名誉会員になって戴きました。

さて、桐生西RCの創立時の会員(チャーターメンバ

ー)はキーマンメンバーの4名を入れて31名でした。

特別代表は金友織物の金子友三郎氏でした。

会員の選定に当っては、特別代表及びキーマンメンバーの業界や人脈を通じて募集されたようですが、私もその時入会させて戴きました。

ただその当時は、私も仕事の方が忙しく、毎週の例会に出席することは、考えただけでも到底出来ないし、未だ修行中の身で、ロータリー入会は時期尚早と考え、最初は断り続けていました。

以前、星野精助さんが卓話で話されたことがあります。その頃、星野精助さんがリーダーとなって、大間々に「二十日会」という会があり、私もその仲間に入れて戴きました。

「二十日会」というのは、町で事業をしている人達で、親が社長でまだ健在の二世達の集まりでした。仕事は第一線でそれなりにやっているのに、親に頭が上らない、お得意様にも同様、それらのストレスを解消するために、親睦を主体とした勉強会でもありました。毎月20日頃が仕事の関係で、割合時間が作れそうだとということで、毎月20日前後の夜、会合を開いていたものです。

桐生西RC設立の準備が始まったときに、星野精助さんの提案で、この「二十日会」を発展的に解散して、新しい桐生西RCの会員として、もっと広い視野での活動に参加しようということになり、多くの人が桐生西RCの創立会員になった訳です。

当時私は38才でした。奇しくも桐生西RCも発足して38年になります。即ち、私の今までの人生の丁度半分がロータリークラブに所属していたことになります。

この様にして、創立会員も31名集まり、1971(昭和46)年10月29日に金友織に於いて、創立総会が開催され、ロータリーの基本的な説明も受け、少しずつロータリーのことが解って来ました。

そこで、1971(昭和46)年11月12日に金友織に於いて、桐生西RCの仮発会式が挙行され、これが桐生西RCの第1回目の例会になった訳です。

この仮発会式では、当時のガバナー高島佳次氏、特別代表の金子友三郎氏、PG前原勝樹先生、小山桐生市長さん始め、ロータリークラブの来賓多数をお迎えして、緊張した式典でした。

チャーターメンバーは31名でしたが、N会員1名だけ病気とのことで欠席でした。

4名のキーマンメンバー以外は、全員ロータリーは初めての会員でしたから、見るもの、聞くもの、みんな新しいことばかりで、不安と期待が入り交じって、真剣そのものでした。

そして、キーマンメンバー4名の方々が初代の会長(星野重夫会員)、副会長(星野精助会員)、幹事(矢野亨会員)、会計(新井敏夫会員)に就任され、他の会員にも夫々会務分担が与えられました。

この発会式の様子は、我がクラブ会報の創刊号に掲載されています。

私は、初代の会報委員長に任命され、毎例会の記録を出来るだけ詳細に、会報に記録して残す事に努めて参りました。

チャーターメンバーで現在残っている方は、名誉会員の星野精助氏、矢野亨会員、平澤宏会員、星野幸男会員、井本上輔会員(途中で一度退会し再入会)、そして私金子です。

仮発会式から約1週間後、1971(昭和46)年11月20日付で、国際ロータリー加盟が承認されたという通知が来ました。当時としては異例の速さとのことで、然も世

界で15,000番目というラッキー No でした。
 (日本のロータリークラブとして1,081番目ということ
 です。)

ここで、PG前原勝樹先生についてお話いたします。
 前原勝樹先生の書かれた『ロータリー入門書』は、あま
 りにも有名な本ですが、その中に、銘記すべき次の言葉
 が出てきます。

◎ロータリーの終局の目的は何か？

『それは、人間関係を改善することによって、
 よりよい社会を創り、平和な世界を築くために
 貢献することである。その人間関係の改善のため
 には、一人ひとりの人間の善意を呼び起こし、
 同志が深い信頼と友情によって
 結ばれた時に、初めて出来るものである。』

と述べて居られます。

そして、これも有名な言葉ですが、

『もし善意というものがなければ、
 ロータリーはただの社交クラブだ。

職業奉仕は金儲けでしかなく、
 社会奉仕というも施しにすぎず、

国際奉仕は外交以外の何ものでもない。』

この言葉を、当時のR I 会長 (1971-72年度R I 会
 長) アンスト・G・ブライトホルツ氏 (スウェーデン) に
 提唱したとのことでした。

この言葉を参考にして、その時のR I 会長テーマ

『善意は先ずあなたから
 “Good will begins with you” 』

が生まれたとのことでした。

この前原勝樹先生とR I 会長ブライトホルツ氏の関係
 で、桐生西RCが異例の早さでR I 加盟が承認され、し
 かも15,000番目というラッキー No まで戴けたのでは
 ないかと想像されています。

発会式後の毎週の例会は、前原先生初め、当時の分区
 代理 桐生RCの松島貫一氏、ロータリーのベテラン
 桐生RCの吉野一郎氏、桐生南RCの菊地晤氏など、多
 数のロータリアンの方々から、ロータリーに関していろ
 りと御指導を戴き、認証状伝達式 (チャーターナイト)
 に向けて、準備が始まる訳です。

会員も、もっと増強して、チャーターメンバー31名
 の中、N会員が退会していたので、更に9名の新会員を
 得て、39名で準備に入りました。

9名の新会員の中、現在残っている会員は齋藤憲一
 会員、深沢亮一 (現 直十郎) 会員 (途中で一度退会して
 再入会) です。

チャーターナイトは、発会式の翌年1972 (昭和47)
 年4月27日に桐生市産業文化会館で挙行了しました。来賓、
 ロータリアン、御夫人方、報道関係等、600名近くが参
 加し、盛大に開催されました。

15,000番目に国際ロータリーに加盟認証されたクラ
 ブということで、皆さんから祝福され、今後の活動を期
 待されました。我々会員も、大勢の人が集まった晴れや
 かな会場で、一人ひとり、家内共々、皆さんに紹介され、
 非常に感激した一場面でした。

これら、当クラブの発会式前後のことから、各例会の
 内容等は、クラブ会報に記載されて残って居ります。

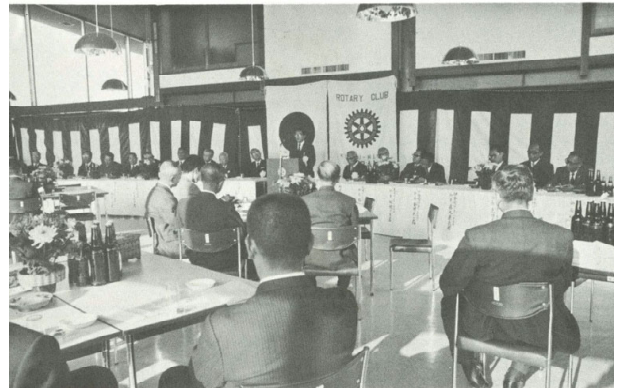
そして、去る第800回記念例会のときに、私が卓話を
 させて戴き、「会報に見るクラブの歴史」というタイト
 ルで話しました。その時の内容は、故奥村栄一郎会員の
 指示で「20年の歩み」に記録として掲載されて居りま
 すので、何かの機会にお読み戴ければ幸いです。

それでは、ここでパワーポイントを使って映写しま
 すので、見て戴きたいと思えます。これは事務局の清水さ

んに頼んで作成したものです。

画面を見ながら補足説明をして参ります。

① 仮発会式会場の写真



クラブ会報創刊号の1面に掲載したもので、
 まだ、クラブがR I から正式に認証されていない、
 仮クラブのため仮発会式と呼びます。

② The Rotarian (国際ロータリーの機関雑誌) の
 1972. Feb. の表紙及び20頁の記事紹介



15,000番目にできた桐生西RCが、社会奉仕活動
 として大間々町の養老院「高津戸荘」を慰問したとい
 う記事が、そのときの写真3枚入りで掲載。記事の中
 に、R I 加盟認証1,000番目が1921年の英国のヨーク
 RC、5,000番目が1939年の米国のロックマートRC、
 10,000番目が1958年のインドのマングラビRC、
 そして15,000番目が1971年の日本の桐生西RCと
 あります。

(現在世界のRC数は33,800位とのことですから、
 随分発展したものです。)

③ チャーターナイトの写真 (当時のアルバムから数枚)



ガバナー高島佳次氏から星野重夫会長が「R I 加盟認
 証状」を伝達されている写真。



会員夫妻が皆さんに一人ひとり紹介されている写真。

④ 前原勝樹先生御夫妻が生前お元気な頃のスナップ写真



1990-91年度RI第256地区大会
新潟県新津市市民会館にて
(私が会長として参加したとき撮影)

以上、あまりまとまらない話になりましたが、ご容赦戴きたいと存じます。

又、資料作りに協力して下さいました事務局の清水さんに感謝申し上げます。

群馬大学

名誉教授・特任教授 片貝良一

桐生市天神町1-5-1 群馬大学インキュベーションセンター

TEL 0277-30-1118

株 藤井 経営

取締役部長 小林 恵司

伊勢崎市大手町10-20

TEL 0270-25-7696

《次例会予告》

11月27日(金) 外部卓話

太極拳講師 塩谷治江様

メンバーは今!! No. 45

平塚英夫会員



平塚さんは平成元年7月14日に入会した、ロータリー歴20年の年長会員である。推薦者はプリオパレス社長の松井さんである。同期入会者に中野さんと退会した長谷川さんがいた。1997-98村岡年度の幹事を務めている。この年度は直前に桐生赤城ロータリークラブの創立

総会が開かれた時であり、多数の会員がチャーターメンバーとして赤城クラブに移籍し、クラブ運営にもそれなりの困難さがあつた時の幹事として、大変苦勞をされたようである。平時のクラブ運営にも幹事は細部にわたって気を遣いながら例会その他を切り回す役割であり、ましてや新クラブのスポンサークラブとしての運営には幾多の出来事があつたに違いない。

平塚さんの入会当時には70人を超す会員が在籍し、クラブの運営も非常に厳格に行われていた。非常に活気のあるクラブではあつたが、新人には厳しさが身にしみたとのこと。現在のロータリークラブは会員個人に対して己を律する厳格さがなくなった分、楽かもしれないと話す。しかし、その厳格な自己規律を求めるからこそロータリークラブが現在迄営々と存続しているのではないかと想う時、平塚さんを含めた年長会員の現在の西クラブに対する苦言を真摯に頂きたいと思う。

前年度クラブ会報・雑誌委員長 片貝良一

ロータリー財団の創始者 アーチ C. クランフ氏



1916-17年RI会長アーチ C. クランフ氏は、「世界でよいことをするために」基金の設置を提案しました。

この基金が「ロータリー財団」の始まりです。

このアーチ C. クランフ氏は驚くべき人物だったそうです。

1869年に米国ペンシルベニア州の貧しい家庭に生まれ、家計の足しにするために、12歳で学校を辞めて仕事に就きました。16歳の時、クヤホガ材木会社の使い走りになり、自分の考えで夜間学校に入学し、大変な仕事の後、電車賃を節約するために、片道4マイル(約6.5km)の距離を歩いて学校に通いました。

会社の経営が危なくなった時、クヤホガ材木会社はクランフ氏をマネージャーに昇格しました。彼は会社の経営を好転させ、米国中西部の材木業界で最も収益性の高い企業の1つにまで発展させました。元使い走りの少年はその後、同社を購し、さらに銀行や汽船会社など、数々の企業の社長や副社長に就任しました。

18歳のとき、クランフはフルートの演奏を独学で学びました。3年後、フルートの名手となった彼はクリーブランド・シンフォニー・オーケストラのフルート演奏家となり、その後14年間シンフォニーで演奏を続けました。

1911年「材木卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランド・ロータリー・クラブの創立会員、1912年にはクラブ会長、そして1916-17年度RI会長になりました。